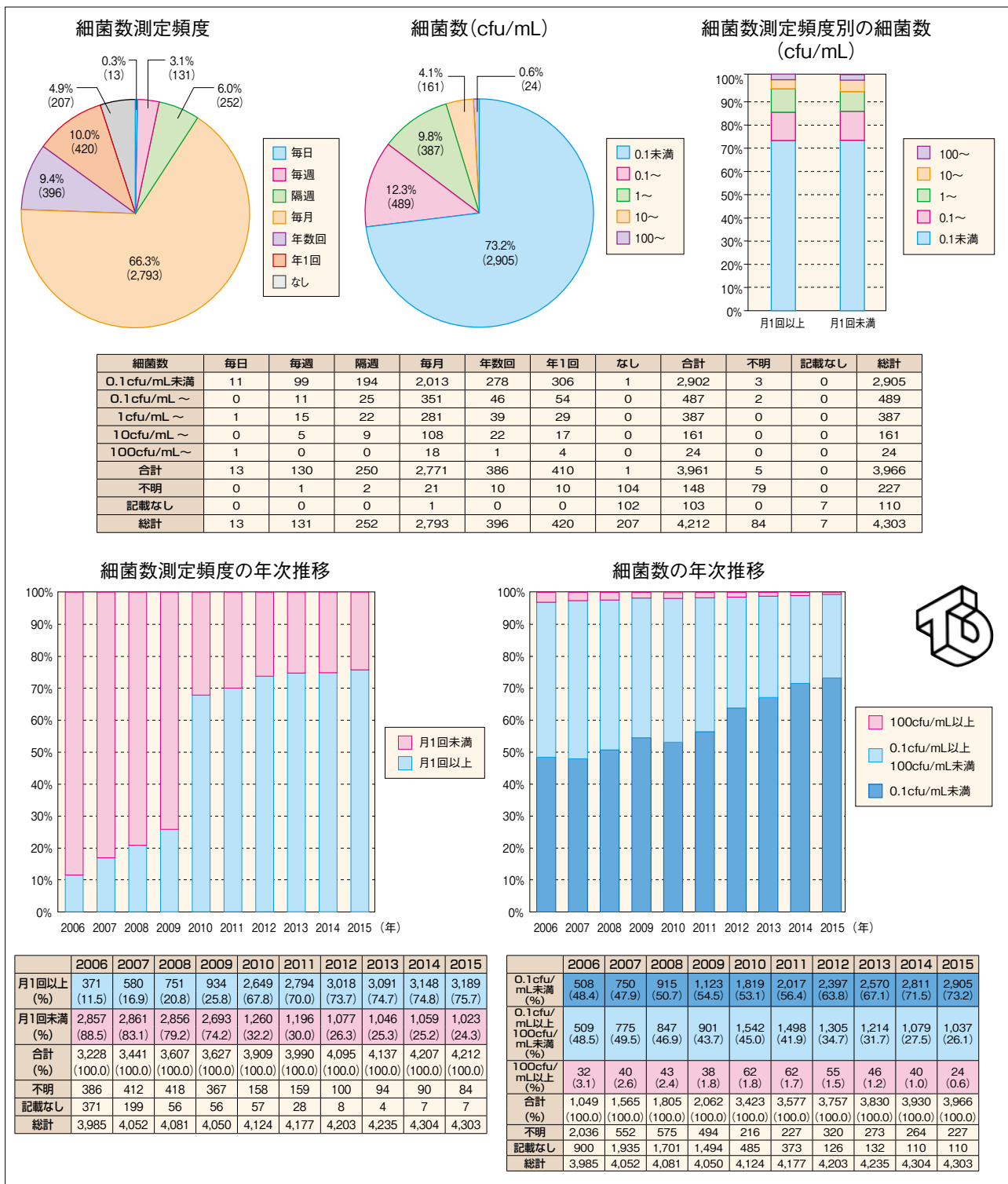


# 1) 透析液水質管理

## (2) 透析液細菌検査 (図表28)



### 解説

施設調査による集計

ベッドサイドコンソールを1台以上有する4,303施設のうち、透析液細菌数測定頻度は4,212施設 (97.9%)、ET濃度は3,966施設 (92.2%) から不明以外の回答が得られた。

2008年に示された日本透析医学会の水質基準では、透析液細菌数測定頻度は月1回以上を推奨しているが、75.7%がこれに合致し、その割合は年々増加傾向を示している。

日本透析医学会の水質基準ではすべての透析治療に超純粋透析液 (透析液細菌数 0.1cfu/mL未満を担保) を推奨しており、標準透析液 (100cfu/mL未満) を必要最低限の水質としている。2015年末の調査では、0.1cfu/mL未満が73.2%、100cfu/mL未満が99.4%で達成されており、いずれもその割合は年々増加傾向を示している。